



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」97号
Issue Date	1996-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66422
Type	journal
File Information	yuin97.pdf





拾 蔭

Yuin

北海道大学附属図書館報

目 次

○大学における学生の勉強場所		○会議	14
医学部教授 阿部和厚.....	1	○研修・講習会等	15
○新図書館情報サービスシステムについて(5)	4		
○教官著作寄贈図書	9		
○お知らせ	10		

大学における学生の勉強場所

医学部教授

阿 部 和 厚

学生の勉強場所としての図書館について書いてみよう。

ちょっと変わった授業をしている。授業をしてもらっているといった方が正しい。

たとえば、入学したばかりの1年生前期「医学概論」、後期「医学史」では、100人のクラスを10人ずつのグループに分け、あるテーマについて、グループで勉強し、クラスで発表してもらう。「医学史」では、医学の歴史に名を残した人物を順に学んでいく。学生にとっては、初めて聞く人物がほとんど。ふつう、歴史の授業というと、ある人物が、何年に、何をしたらと講義をし、それを暗記しているかどうかの試験をする。しかし、学生は、一方的知識伝達授業、丸暗記には飽き飽きしている。そんなことで学生が中心となって授業をしてもらうことにした。

私は、教官仲間とともに、こんな授業を全学教育や医学部のカリキュラムでいくつか担当している。

「医学史」では、ある人物がテーマに与えられ、「その人物の生い立ち」「その人物の業績」「その時代の社会背景」「その後に与えた影響」「関連分野での今日性」「今日はどうなっているか」「これからどうなるか」「自分たちはどう考えるか」……について、45分の発表をし、30～40分間クラス討論、5分程度の教官のコメント、5分程度のミニレポートで終わる。このような授業は、スポーツに例えるとよい。たとえば、学生は野球チームの選手で、教師はコーチを演じる。

学生は、少なくとも3週間前、グループによっては1～2カ月前から準備する。リーダーをたてること、グループ全員が協同で作業すること、

45分の発表の内容と順序に即したレジメを当日に配布することを必須条件にし、また、できるだけ現場にでて調査をするように指導。

発表の当日、学生は、きわめてアトラクティブな授業をする。

演劇、実演、音楽—CDあるいは生演奏付き、OHP・35 ミリスライド、ビデオ、自分たちで取材して編集したビデオ、実物提示テレビカメラ像と教室で利用できるあらゆるメディアを用いて授業を展開。授業の入り、がやがやしている教室をぴたっと黙らせる「つかみ」の術も心得ている。発表の内容は、よく整理され、説得力がある。内容は教官の授業に決して引けをとらない。総合的には、教官の授業よりはるかに面白く、今日的で、討論も活発である。「このごろの学生には勉強意欲がみえない」といっている教官にみてもらいたいと思う。私たちのクラスをみると、学生が時代の先端を行っていて、遅れているのは教官であると思ってしまう。

このようなグループ発表には、グループによる綿密な準備が必要である。当然、図書館で多くの文献や資料を調べることで、歴史的な事柄には厚みがでる。現在の種々のデータも図書館で調べる。また、現場にでて見学、インタビューに行く。私が勧めたこともあって、8ミリビデオカメラを持参でかける。学生は1時間から2時間におよぶ映像素材を編集して数分にまとめる。

これらの作業では学生は頻回に集合して、発表の形にまとめる。このようなグループ学習の場に、何と学生は生協の学生食堂(学食)を利用している。いつでも使えること、討論で少々騒がしくしても他に迷惑がかからないというのが理由である。

このような学生のグループ学習の場が図書館にないというのはどんなもんだらう。

この授業では、1週に1グループの発表だが、3週以上前から準備をするので、1度に数グループがグループ作業している。1回の授業に数グループが発表するものもある。他の授業で

もグループ作業を必要とするものがある。こうなると、かなりの数のグループ学習が進行することになる。しかも、全学的に多くのクラスでとなれば、相当な数だろう。大学の図書館は、学生の新しい学習形態を支援する建物となっていく必要がある。

大学の図書館は、今日、最新情報収集の研究支援中心で考えられ、しかも電子図書館が合い言葉、流行語になっている。しかし、電子図書館といっても、印刷媒体は決してなくなるまいだろう。電子図書は、日進月歩の電子情報テクノロジーの時代では数年で媒体は変わっていく。電子図書は、情報のディスプレイ媒体と考えたほうがよい。数十年単位の情報の保存は、やはり印刷媒体が依然として重要である。そうはいっても、今日の研究情報は、電子情報、ネットワーク情報にたよっている。各研究者は、研究室のパソコンを通じて検索、収集し、パソコンが図書館となる。研究者にとって、とくに理系の研究者にとって、建物としての図書館はそれほど重要ではなくなるだろう。

一方、今日の学生の学習形態をみ、さらに今後を展望すると、大学図書館の建物は、学習図書館としての機能がさらに重要となる。大学図書館の外部サービス空間の大部分は、学生の学習空間として設計され、しかもこれまでより大きく、多様な機能スペースを提供しなければならない。

今日の大学生の学習形態は、これまでとずいぶん違ってきている。これは、個人学習からグループ学習への変換である。この傾向は、高等教育を展望すると、さらに大きくなっていくとみなされる。大学生の勉強の伝統的な形は、偉い先生の一方的な授業を拝聴し、これに触発されて、自習していく、きわめて個人的学習が主体であった。しかし、モダンな教育では、学生同志の相互作用インターアクションを重視する。これにより教育の効果と効率をあげる。個性も、集団のなかで互いに触発され、能力が発揮され、多様な成果を生み出す。このためには、

校舎の設計もこれまでと同じというわけにはいかないだろうし、大学図書館もこれを支援する建物とならなければならない。

大学図書館が学習図書館として充実されるべき内容は、つぎの理由による。1) 学生の自習は、自宅から、大学、大学図書館へ移ってきている。2) 大学での学習形態、とくに教室外学習は、グループ中心となる。3) 学習には、コンピューター利用、マルチメディア利用が通常化する。1) については、これまでの集団のための大閲覧室のほかに、個室（あるいは個室型オープンボックス）が必要となる。2) には適当な大きさのグループ学習室が必要となる。生協食堂が利用されている理由は、これらのグループ作業は討論、発表リハーサルなどで声をだすため、静かな大閲覧室は不適だからである。10～十数人程度の学生のためのグループ学習室が用意され、内部の騒音が外へ漏れないようにする。ここには、白板、OHP、35 ミリスライド投影機、パソコン、ビデオとテレビなども必要だろう。20 人程度の部屋も必要となろう。とにかく、大学図書館には、これまでなかったものとして、かなりの数のグループ学習室が必要となる。パソコンが多数ある部屋も必要だろう。これにより、インターネットでの情報検索、電子図書 (CD-ROM) による学習が可能となる。

このような図書館は、授業をうける教室にできるだけ近いほうがよい。とくに全学教育の場では、選択履修のためにできる不規則な空き時

間を利用できるように、中心に図書館が必須となる。また、夜半までの開館が必要である。たとえば、私にとって身近な医学部の学生は、いくつかのグループが図書館ロビーに閉館まで、多くのグループが学部内のいくつかの自習室に夜半すぎまで勉強している。今日の学生には、グループ学習が通常化している。このための場所は大学では図書館が提供するのが本来であろう。

また、今日、大学の社会への開放は、教育、研究とならぶ大学の 3 大機能のひとつとなっている。大学の図書館は、市中図書館にはない専門的、かつ高度な学術情報を提供する場として、社会人の利用にも便宜が図られ、社会人の学習図書館ともなる。

以上のように、これからの大学図書館を展望すると、今日、力が入っている電子図書館化は図書館の情報収集機能のことであり、建物では学習図書館として、これからの教育で機能する設計が重要となる。大学図書館は、研究支援は当然として、学生の重要な勉強場所であり、グループ学習、メディア学習へ対応しなければならない。学生食堂でなく、図書館が学生の勉強グループで活気にみち、また、マルチメディア教材作成、コンピューターによる発表原稿作成、ビデオ編集も可能な建物。これが新しい大学図書館の姿である。

(あべ かずひろ、高等教育開発研究部長)

新図書館情報サービスシステムについて

その5 — ラインモード版 OPAC

1 はじめに

前々号、前号と2回にわたり閲覧室 OPAC, WWW 版 OPAC についてご紹介しましたが、最終回の今回は、ラインモード版 OPAC についてご紹介します。

2 利用できる端末

パソコン、通信機能のついたワープロ、ワークステーションなどで、HINES に接続しているものであれば検索することができます。

電話回線から直接接続する方法はサポートしていませんが、HINES に HGATE からアクセスすれば、検索することができます。

3 接続先

以下の接続先にアクセスしてください。

- clark1. lib. hokudai. ac. jp
ログインID, パスワードは以下のとおりです。
ログインID opac
パスワード opac

4 サービス時間帯

原則として24時間ご利用いただけます。ただし、メンテナンス作業等のために検索サービスを停止する場合があります。この場合はHINESの電子掲示板 o.library 等でお知らせします。

5 問い合わせ先

- 検索方法について
情報サービス課参考調査掛
内線：2973, 4107
- 接続方法・障害等について

情報システム課情報処理掛

内線：4025, 2524

e-mail: js@ambitious. lib. hokudai. ac. jp

検索コマンドの詳しい使い方については、オンラインマニュアルをご参照ください。なお、冊子体の検索マニュアルもありますので、ご希望の方は、各部局等の図書室、または附属図書館参考調査掛までお問い合わせください。

6 留意事項

- 1) ブレイクキー(処理の中断)は押さないで下さい。通信が切断してしまうことがあります。
- 2) 検索語を32件以上入力すると、「M 018 C 検索語の入力数がオーバーしました」というメッセージが表示されます。その場合は、BEGIN コマンドを入力し、検索を再開して下さい。BEGIN コマンドを入力すると、それまでの検索結果、検索履歴等はクリアされます。

検索の実際

1 接 続

※下線部が入力部分です。△はスペース（空白）を意味します。

[ENTER] は Enter キー（リターンキー）のみを押すことを意味します。

①検索サーバに接続します。

※具体的な手順は使用する通信ソフトによって違います。

Trying 133.50.30.130...

Connected to clark1.lib.hokudai.ac.jp.

Escape character is '^]'.

EWS-UX/V (Rel4.2) (clark1)

login: opac ← ②ログイン ID (opac) を入力します。

Password: _____ ← ③パスワード (opac) を入力します (画面には表示されません)。

EWS-UX/V (Rel4.2)

clark1

Copyright (c) 1993 NEC Corporation.

Copyright (c) 1993 UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1987, 1988 Microsoft Corp.

All Rights Reserved.

Last login: Tue Sep 3 16: 31: 58 on pts/4

Welcome to OPAC !

Please select your code ? (0: EUC 1: SJIS default [0: EUC]): 1

④文字コードを選択します。

※通信ソフトの設定と一致するものを選択します。

何も入力せずに Enter キーを押すと、EUC が選択されます。

ただいまデータベースの初期化中です。しばらくお待ち下さい。

使い方がわからない時は、“HELP” と入力してリターンキーを押して下さい。

>>←⑤このプロンプトが表示されたら、検索可能です。

2 検 索

以下の資料を実際に検索してみましょう。

書 名：UNIX system V：システム・アドミニストレーション・リファレンス・マニュアル

著者名：AT & T Bell Laboratories

>> search unix ← ①書名(「UNIX System V」)中の語

“unix”で検索します。

a) 検索するときには search コマンドを使います。

使用法：search △検索語

※コマンドは省略形も使えます。

s △検索語

b) 検索語としては、書名、書名中の語、著者名などが使えます。

※詳しくは前号の楡蔭 (No. 96) p. 5-7 を参照してください。

1. unix=117 件 ← ② 117 件ヒットしました

※検索語の前の項番 “1” は、検索集合番号といいます。

>> search system ← ③ヒット件数が多いので、別の検索語(“system”)でも検索してみます。

2. system=2715 件 ← ④ 2715 件ヒットしました

>> combine 1 * 2 ← ⑤“unix”と“system”のどちらにもヒットするもの(論理積)を検索します。

a) 論理演算式を入力するときは、combine コマンドを使います。論理演算式は論理積(*), 論理和(+), 論理差(-)が使用できます。

使用法：combine △論理演算式

省略形：c

b) 論理演算式で使用する数字は、検索集合番号を意味します。この例では、

1 … “unix” での検索結果

2 … “system” ”

3. 1 * 2 =17 件 ← ⑥ 17 件ヒットしました

>> browse ← ⑦ヒットした 17 件のタイトルなどの一覧を表示します。

browse コマンドを使います。

使用法：browse △検索集合番号

※検索集合番号を省略した場合は、一番最後の検索集合の内容が表示されます。

省略形：b

簡略書誌一覧

該当件数 17 件 現在まで 7 件 残り 10 件

1. UNIX System V 入門/R. モーガン, H. マギルトン著. -東京: マグロウヒル出版, 1989. - 冊; 21 cm
2. UNIX system V/AT & T Bell Laboratories [著]; 日本ユニソフト株式会社訳. -東京: AT&T ユニックスパシフィック, 1985. 10. - 2 冊; 21 cm
3. The design of the UNIX operating system/Maurice J. Bach.-Englewood Cliffs: Prentice-Hall, c1986.-xiv, 471 p.; 25 cm
4. The UNIX System V environment/Stephen R. Bourne.-Wokingham, England; Tokyo: Addison-Wesley, c1987.-xiii, 378 p.; 24 cm.-(International computer science series/consulting editors, A. D. McGettrick, J. van Le
5. The UNIX text processing system/Kaare Christian.-New York: Wiley, c1987.-xii, 250 p.; 24 cm
6. Document formatting and typesetting on the UNIXTM system/Narain Gehani.-2nd ed.-Summit, N. J.: Silicon Press, c1987.-xv, 377 p.: ill. ; 24 cm
7. The design and implementation of the 4.3BSD UNIX operating system/Samuel J. Leffler... [et al.]. -Reading, Mass.: Addison-Wesley, c1989.-x xii, 471 p.: ill.; 24 cm. -(Addison-wesley series in computer science

>> [ENTER] ← ⑧Enter キーを押して続きを見ます。

簡略書誌一覧

該当件数 17 件 現在まで 14 件 残り 3 件

8. Using the UNIX system/Richard Gauthier.-Reston, Va.: Reston Pub. Co., c1981.-xiv, 297 p.; 24 cm
9. The UNIX operating system/Kaare Christian.-New York: Wiley, c1983.-xviii, 318 p.: ill.; 24 cm
10. A user guide to the UNIX system/Rebecca Thomas, Jean Yates.-Berkeley, Calif.: OSBORNE/McGraw-Hill, c1982.-xi, 508 p., [1] leaf of plates: ill.; 23 cm
11. UNIX system V : システム・アドミニストレーション・リファレンス・マニュアル/AT & T Bell Laboratories [著]; 日本ユニソフト株式会社訳. -東京: AT&T ユニックスパシフィック, 1985. 11. -197 p: 21 cm
12. The UNIX system/S. R. Bourne.-London; Reading, Mass.: Addison-Wesley, c1983.-xiii, 351 p.; 24 cm.-(International computer science series/consulting editors, A. D. McGettrick, J. van Leeuwen;)
13. UNIX system administration handbook/Evi Nemeth, Garth Snyder, Scott See bass.-Englewood Cliffs, N. J.; Tokyo: Prentice Hall, c1989.-xxx, 593 p.: ill.; 24 cm.-(Prentice-Hall software series;)
14. プロフェッショナル UNIX/村井純 [ほか] 共著. -東京: アスキー, 1986. 1. -325 p: 21 cm. - (ASCII SOFTWARE SCIENCE: Language; Operating system; 1)

>> display 11 ← ⑨項番 11 が目的の図書です。どこで所蔵しているか調べるために, dis-

play コマンドを使います。

使用法：display △項番

省略形：d

単行書誌詳細表示 (20317495)

UNIX system V：システム・アドミニストレーション・リファレンス・マニュアル／AT & T Bell Laboratories 〔著〕；日本ユニソフト株式会社訳。－東京：AT&T ユニックスパシフィック，1985. 11. －197 p；21 cm

OR: UNIX system V.

共同刊行：日本ユニソフト

発 売：共立出版

所在情報一覧 該当件数 2 件 現在まで 2 件 残り 0 件

請求記号	巻冊次／ISBN	資料番号	所 在	状 態
001.6 AT	4320097025	1770000130	本館書庫・和書	
001.6 AT	8710013023		情報処理教育センタ	

↑

⑩附属図書館本館，および情報処理教育センターで所蔵していることがわかりました。

3 切 断

>> end ←①検索終了のコマンド (end) を入力します。

検索システムを終了します。

Connection closed by foreign host.

↑

②サーバとの通信が切断されました。

教官著作寄贈図書

平成8. 6. 1～8. 12. 31

[本 館]

(名誉教授)

小 山 昇 (編)	小山貞知と満州国 (上・中・下)	信 山 社	1996
有 江 幹 男	楡 の 学 舎 で	有 江 幹 男	1996

(法 学 部)

木 佐 茂 男	豊かさを生む地方自治	日 本 評 論 社	1996
〃	自治体法務とは何か	北海道町村会	1996

(経済学部)

浜 田 康 行 (共訳)	イングランド銀行の 300 年	東洋経済新報社	1996
黒 田 重 雄	比較マーケティング	千 倉 書 房	1996
吉 田 文 和 (共訳)	東アジアの環境問題	東洋経済新報社	1996

(大学院理学研究科)

下 地 光 雄 (名誉教授), 伊 丹 俊 夫 (共編)	Non-Metallic Elements in Liquid Metals		
		Transtec Pub.	1996

(工 学 部)

田 中 讓 (共編)	Information Modelling and Knowledge Bases VII		
		IOS Press	1996

[北 分 館]

(言語文化部)

竹 中 のぞみ	Le sacrifice et la communion des saints dans les romans de Francois Mauriac	Lettres Modernes	1996
---------	---	------------------	------

ご恵贈, ありがとうございました。
今後とも図書館資料の充実のため,
皆様のご協力をお願いいたします。

お知らせ

法学系拡大遡及入力事業が実施される

今般、目録情報遡及入力の効果的推進施策である全国的な分担入力の一環として、法学系書誌情報の拡大遡及入力事業を実施する運びとなりました。現在実施中の第3期北大遡及入力事業と平行して、附属図書館所蔵未入力図書の内、1970年代以前の法学系分野の和・洋図書を対象とした拡大遡及入力事業を平成8年11月から実施いたしました。

これにより、全国的にデータ作成が遅れている1970年代以前の人文・社会科学系資料の書誌情報を集中的に入力されることになり、全国の目録作成機関の作業の効率化に直接貢献できるものであり、また、所蔵資料の電子化による情報提供サービスは、ILLサービスの拡大と国内外の人社系分野の研究推進に計り知れない効果を与えるものと期待しております。

CAonCD, PsycLIT等のサービスについて

附属図書館では、CAonCD (Chemical Abstracts), PsycLIT等をHINESを通してサービスするために、本年3月を目処に新しい外部データベース検索サービス・システムを導入することになりました。更に、これまで利用上課題のあったBIOSISも新システムでサービスする予定です。また、医学中央雑誌データベースについても導入を検討しています。

新システムのOSはWindowsNTserverを採用する予定です。

利用者端末の要件は、提供データベースの検索ソフトの仕様によって多少こととなりますが、OSがWindows, Macintoshであればどのデータベースも検索できることとなります。また、一部データベースはWebブラウザでの検索も可能とする予定です。

新しく提供を予定しているデータベースの概要は以下のとおりです。

1. CAonCD

1) 概要

CAonCDは冊子体Chemical AbstractsをCD-ROM化した化学文献データベースです。

巻末索引を含む冊子体Chemical Abstractsの全ての情報が利用でき、冊子体Chemical

Abstractsの全ての索引中のデータ(著者名や化学物質名等)や発行年度等が検索の対象となります。また、それらを組み合わせて検索することもでき、およそ以下の特徴を持っています。

- ・Chemical Abstractsの巻末索引(Volume Index)のデータが月々のディスクに含まれる。
- ・検索によって、まず文献のタイトルが表示され、次に指定した文献の書誌情報、抄録、索引をワンタッチで表示する。
- ・表示した全ての文献、或いは、選択した文献の情報を、ただちにプリントアウト、又はダウンロードすることが出来る。
- ・検索式を保存しておくことが可能で、SDI検索に適している。
- ・抄録中の構造式が表示出来る。

2) サービス開始時期

サービスは準備作業が順調に経過すれば本年3月からのサービス開始を予定しています。

3) 利用手続き開始時期

本誌の発行と前後してアナウンスします。

4) 利用負担金

1ユーザ毎に年間2万円となりますが、今年度内の利用については、利用期間が短期間につき課金は行わない予定です。

2. PsycLIT

PsycLIT は、アメリカ心理学会が刊行中の心理学分野の文献情報誌 Psychological abstracts を CD-ROM 化したデータベースです。

PsycLIT には、世界 45 カ国で刊行中の心理学分野の有力雑誌/図書等約 1,300 点を対象に、各記事や掲載論文の索引や抄録が入力されてい

ます。

雑誌論文は 1974 年以降、図書の論文は 1987 年以降を収録対象とし、現在まで約 57 万件のレコードが入力され、毎年約 53,000 件が追加されます。

本年 4 月からサービス開始の予定です。

(情報システム課情報処理掛)

北海道大学創基 120 周年記念公開事業に図書・資料展が開催される

平成 8 年 10 月 5 日(土)から 7 日(月)の 3 日間附属図書館は、「マルチメディア大学図書館～大学図書館とインターネット～」をテーマとする公開事業を、本館及び本学百年記念会館を会場にして開催しました。

公開は、広報ビデオの公開、インターネット体験、マルチメディアでみる北大 120 年のあゆみ、開架閲覧室公開、書庫ツアー、蔵書検索端末公開、貴重資料展示等を第一会場である本館で、資料と写真で見る北大の沿革を第二会場である百年記念会館でそれぞれ行われました。

期間中、市民、本学の職員・学生 1,700 人が来場し、また、10 月 7 日には井上文部事務次官

が訪問され、吉田館長の出迎えを受けた後、貴重資料展示「蝦夷地の記憶—北海道の昔—」などを視察しました。



視察する井上文部事務次官

農学部中央図書室の図書貸出がオンライン化されました。

平成 8 年 9 月 2 日から、農学部中央図書室の図書貸出業務がオンライン化されました。

これまでは、「農学部図書借用証」に記入する方法で貸出を行っていましたが、同日から農学部中央図書室の利用者は、学生証又は図書館利用証を提示するだけで資料の貸出を受けるこ

とができるようになりました（ただし、未製本雑誌や学位論文等のように資料番号の付いていないものは除きます。）。

なお、森林科学科図書室や農業経済学科図書室等は、オンライン化されておらず従来どおりの貸出方式で行われますので御注意ください。

前号(No. 96)の訂正方お願い

前号の掲載記事に誤りがありますので、下記により御訂正くださいますようお願いいたします。

頁	追 記 訂 正
24	(12 行目) 小峯邦夫 農学部図書閲覧掛 (教育学部図書掛)

頁	正	誤
8	触媒化学研究センター	触媒科学研究センター
9	〃	〃
24	農学部図書整理掛	農学部図書閲覧掛

北方資料マルチメディア・データベースの実験的な提供

北方関係資料総合データベースは、北海道大学附属図書館北方資料室に所蔵されている北方圏に関する写本・写真・書簡・地図等の資料をもととし、その構成及び利用形態から、マルチメディア技術を存分に駆使したデータベースとして計画されたものである。

この北方関係資料総合データベースは、学内LAN (HINES) 及び学術情報センターのネットワーク検索システムを通じて、学内のみならず全国及び世界の斯界の研究者に提供することを目的としている。

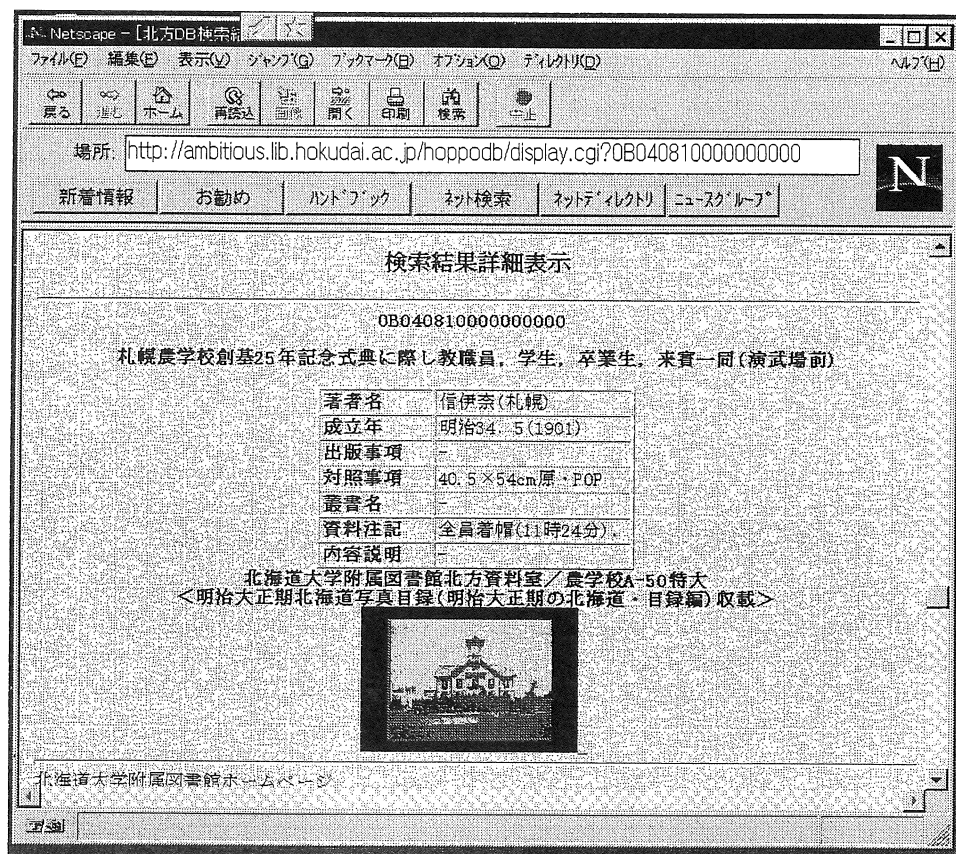
この北方関係資料総合データベースを実現させるために、平成5年度より科学研究費補助金の交付を受け、平成5年度・6年度については、既に出版されている学術的価値の高い冊子体目録(国立大学図書館協議会賞：昭和60年度受賞)をもとにして文字情報データの蓄積を行い、主題・事項等による多様なレベルでの検索・利用

が可能なデータベースの作成が完了している。

その結果、平成8年6月から学術情報センターのネットワーク検索システムにより、北方資料総合目録データベースとして、全国及び世界の研究者への提供をスタートさせることができた。

次の段階として、北方資料室資料の中核をなす静止画像(写真・書簡)、音声、動画像(ビデオ等)のデータベース化を行うこととし、平成7年度から文字情報データベースに対応した北方資料の写真(明治大正期北海道写真)のうち特に貴重なものの約5,200枚の画像情報データベース化の作業中である。

なお、このデータベースの一部は平成8年10月から、実験的に学内LAN (HINES、北海道大学附属図書館ホームページ <http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp>) を通して学内外に提供している。



北海道大学図書館講演会が開催されました。

- 平成8年10月23日に、東京造形大学助教授の桂英史氏による「図書館にとってマルチメディアとはなにか」及び本学高等教育機能開発総合センター助教授の細川敏幸氏による「大学における教育研究活動とインターネット」と題する講演会を開催しました。

この講演会は、道内国立学校の図書館業務に従事する職員に対して本学が行うもので、図書館関係者50名が参加しました。講演後においては活発な質問が出され、非常

に有意義な講演会となりました。

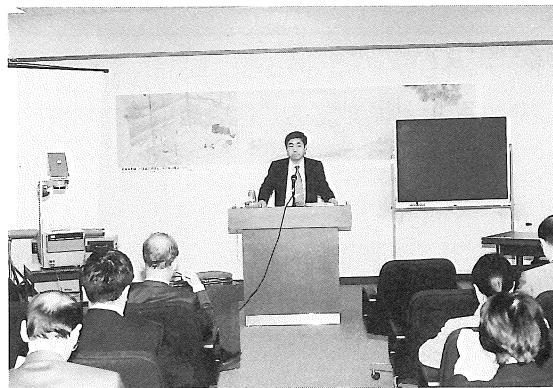


講演する細川助教授

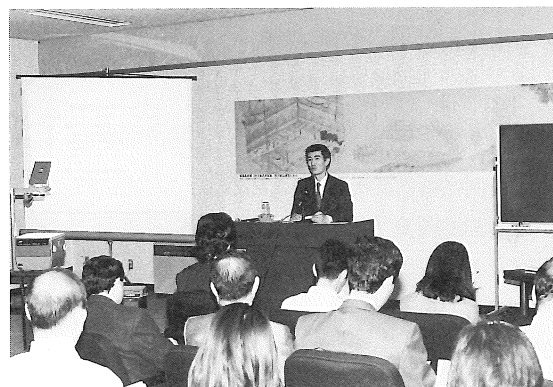
- 平成8年11月21日に、文部省及び学術情報センターから講師を招き、北海道内の国立大学等の図書館業務に従事する中堅職員に対し、業務の遂行に必要な基礎知識の向上を目的とする講演会を実施し、各大学等の図書館関係者70名余りが参加しました。

講演は、文部省学術国際局学術情報課大学図書館係長井深順二氏による「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」と題し、電子図書館化に向けての課題及び各大学図書館における当面の電子化への取り組みなどを、また、学術情報センター事業部目録情報課長笹川郁夫氏による「新CAT/ILLのユーザインタフェースについて（新目録所在情報サービスの概要）」と題して、新CAT/ILLの考え方や開発計画、新システムの説明・デモなどを行いました。

各参加者は、メモをとりながら熱心に耳を傾けていました。



講演する井深氏



講演する笹川氏

防火避難訓練が実施されました

附属図書館の非常時における通報・連絡体制を確立するとともに、避難の迅速な対応の向上を図るため、平成8年10月25日(金)午後3時、本館3階東側語学演習室から出火したものと想定し、防火避難訓練が実施されました。

この訓練は、札幌北消防署の協力及び指導を得て行われたもので、火災報知のベル音を合図に、図書館長及び事務部長はじめ館員一同は、分担された役割に従って、図書館利用者を避難所に誘導したり、消防署への通報や初期消火に

あたる者等真剣かつ迅速に行い、訓練は無事終了しました。北消防署からは、119 番には直ちに通報すること、避難は迅速に行うこと、初期消火が必要であること、避難所は一個所にするなどのお話がありました。

防火避難訓練の終了後、附属図書館正面玄関横において、北消防署から消火器取り扱いの指導がありました。消火器の使用方法や消火剤をかける位置などの指導を受け、数人の館員がオイルパンの火を消し止める初期消火の実地訓練

も行いました。



初期消火の訓練を受ける館員

会議 (8.8.1~8.11.30)

【学 外】

○第 46 回北海道地区大学図書館協議会総会

〈平成 8 年 8 月 29 日(木)〉

当番校：室蘭工業大学

(出席者：図書館長吉田宏，事務部長三上洋由，情報管理課長東海安興，情報システム課長清水二郎，情報管理課課長補佐木村恵一)

○国立大学図書館協議会理事会 (平成 8 年度第 3 回)

〈平成 8 年 10 月 16 日(水)〉

場 所：京都市勧業館

(出席者：図書館長吉田宏，事務部長三上洋由，情報管理課長東海安興)

○第 29 回国立七大学附属図書館部課長会議並びに第 70 次国立七大学附属図書館協議会

〈平成 8 年 11 月 6 日(水)：部課長会議，11 月 7 日(木)：協議会〉

当番校：東京大学

部課長会議

協議事項

1. 電子図書館的機能の整備方策について
2. 遡及入力における図書館間の役割分担について
3. WWW ホームページでの情報提供体制について
4. インターネットを利用した情報提供サービス

スの効果的な運用について

5. 定員削減への対応について

6. 資料の電子化のあり方について

7. 大学図書館における電子図書館への取り組みに関する全国的な連携・協力体制について

8. 図書館職員の海外交流機会の拡大について
承合事項

1. 資料・情報・サービスの電子化に対応した施設の整備状況について

協 議 会

協議事項

1. 図書館資源の効率的な配置について
2. 七大学附属図書館における研究的職員のニーズについて
3. 電子図書館化に対応した図書館サービスの展開のための方策について
4. 大学改革と図書館の対応について
5. 研究開発体制のあり方について
6. 古資料の利用促進の方策について

【学 内】

○第 165 回図書館委員会

〈平成 8 年 11 月 18 日(月)〉

議 題

1. 本委員会委員の代理出席について
2. 北分館委員会委員の任期の継続について
3. 附属図書館の新館構想の推進方策について

報告事項

1. 北海道大学附属図書館規程等の制定につい

て

2. 平成8年度国立大学図書館協議会理事会について
3. 第70次国立七大学附属図書館協議会について
4. 平成9年度の大型コレクション及び自然科学系図書資料収書計画調書の提出日程について
5. 国立大学図書館協議会巡回展示会の企画について
6. 拡大廻及入力事業について
7. 文献画像伝送実験システムについて
8. CAonCD 検索サーバシステムについて
9. PsycLIT のアンケートについて

研修・講習会等 (8.8.1~8.11.30)

【学 外】

- 平成8年度図書館等職員著作権実務講習会
 - 〈平成8年7月24日(火)~7月26日(金)〉
 - (場所：東京大学，主催：文化庁)
 - 受講者：川村幸（附属図書館北分館情報サービス掛），伊藤ますみ（文学部図書掛），井手上恵子（理学部図書掛），中條将喜（医療技術短期大学部図書室）
- 第39回（平成8年度）北海道地区大学図書館職員研究集会
 - 〈平成8年8月9日(金)〉
 - (場所：北海道医療大学)
 - 参加者数 140 名
- 平成8年度漢籍担当職員講習会
 - 〈平成8年9月30日(月)~10月4日(金)〉
 - (場所：京都大学，主催：文部省，京都大学)
 - 受講者：小林流美子（附属図書館情報システム課目録情報掛）
- 平成8年度北海道・東北地区著作権セミナー
 - 〈平成8年10月17日(木)~10月18日(金)〉
 - (場所：北海道立道民活動センター，主催：北海道教育委員会)
 - 受講者：山家尚子（附属図書館情報システム課目録情報掛）
- 第28回国連寄託図書館会議
 - 〈平成8年11月14日(木)~11月15日(金)〉
 - (場所：東北大学)
 - 出席者：佐藤依理子（附属図書館情報サービス課参考調査掛）
- 平成8年度大学図書館職員講習会
 - 〈平成8年11月18日(月)~11月21日(木)〉
 - (場所：東京大学，主催：文部省，東京大学)
 - 受講者：佐々木圭（附属図書館情報サービス課相互利用掛），吉田亘（工学部図書整理掛）

【学 内】

- 平成8年度 ILL システム地域講習会
 - 〈平成8年8月8日(木)~8月9日(金)〉
 - 受講者：児玉陽子（理学部図書掛），細田真紀子（農学部図書閲覧掛），坪田千江子（大学院地球環境科学研究科図書掛）
 - 参加者数：10 名
- 平成8年度北海道大学事務職員英語研修
 - ① 「実用英会話コース」
 - 〈平成8年10月1日(火)~平成9年2月3日(月)〉
 - 受講者：小坂麻衣子（附属図書館情報システム課学術情報掛），杉田茂樹（附属図書館情報システム課情報処理掛），北村雅子（工学部図書整理掛）
 - ② 「中級コース」
 - 〈平成8年10月1日(火)~平成9年1月24日(金)〉
 - 受講者：高野直樹（附属図書館情報サービス課資料サービス掛）
 - ③ 「初級コース」
 - 〈平成8年10月2日(水)~平成9年1月29日(水)〉
 - 受講者：山家尚子（附属図書館情報システム課目録情報掛），川村幸（附属図書館情報サービス課北分館

情報サービス掛), 村田邦恵(農学部図書整理掛), 細田真紀子(農学部図書閲覧掛)

○平成8年度 NACSIS-IR 地域講習会

〈平成8年9月19日(木)～9月20日(金)〉

受講者: 岸本一志(附属図書館情報システム課学術情報掛), 岡田潔(附属図書館情報システム課目録情報掛), 梶原茂寿(附属図書館北分館情報サービス掛), 武田靖恵(工学部図書整理掛), 土田健治(工学部図書閲覧掛), 吉田裕子(工学部材料化学系専攻図書室), 村田邦恵(農学部図書整理掛), 細田真紀子(農学部図書閲覧掛), 南部萬亀子(水産学部図書

掛), 猿橋キヨミ(低温科学研究所図書掛)

参加者数: 20 名

○平成8年度目録システム地域講習会

〈平成8年10月2日(水)～10月4日(金)〉

受講者数: 11 名

〈平成8年10月2日(水), 10月7日(月)～10月9日(水)〉

受講者: 櫻洋子(工学部図書整理掛), 武田靖恵(工学部図書整理掛), 平野知(農学部図書整理掛)

受講者数: 11 名

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん) 通号 97 号

ホームページ: WWW(<http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp>)

発行人 附属図書館事務部長 三上 洋由

編集事務 東海安興・木村恵一・吉田恭子・小川 聡・高野直樹・佐藤依理子・高崎仁雄・
鵜澤和往・石丸 恵・菊池健二・中野真弓美・土田健治・平野 知・高塚 恵

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL 011-706-2967, FAX 011-747-2855

印刷所 (株)アイワード